



柚木 學学長

■ インタビュー / '94 関西学院同窓会神戸支部総会開催に際して 「自然と人間の共生」「人間と人間の 共生」が総合政策学部の基本理念

柚木 學 ▶関西学院大学学長▽

今年四月、柘植一雄前学長の後を受け新学長に就任した柚木學経済学部教授に、来春開設の「総合政策学部」の basic 理念や方向性などにつきお話を伺った。専門の日本経済史、特に酒造経済史、近世海運史等についても丁寧にお話し下さいました。

★私の研究も正に神戸と結びついているんです。

大学院で日本経済史を専攻したんですが、博士課程に進んだ頃から、神戸の地場産業である灘の酒の史料に手

をつけることになつたんです。メソジスト系の関西学院は禁酒禁煙、学内では今でも厳格に守られているわけでですが、その関学で酒に関する研究をやつてきたのも不思議ではありますね(笑)。父が灘酒の研究をしておりまして、研究半ばで亡くなつたのですが、その同じ研究に私も関わることにならうとは夢にも思いませんでした。しかし、灘酒経済史料室などに父が書いたものが残つておりまして、それを見ました時は懐かしかつたです。数え年十二歳で別れた父の「おい」が残つていました。

江戸時代、商品流通の中心は大阪であり、灘の酒のほとんども船で江戸に運ばれていたわけですが、その輸送の海運史は誰もあまり研究していないし、面白そだな興味がふくらみ、酒造経済史から海運史に入つてきました。歴史は過去のものですが、オリジナルな史料などに当たることによって、歴史学に課せられた実証主義に立ちながら、その意味づけなり、理論化を試みることができます。今回の学長職は、定年を間近に控えて、研究のまとめとして新たに本を出版しようと考えていた矢先のことでした。

★少人数でみっちりと総合的政策を立案できる人材を。

一八八九年、米国・南メソジスト監督教会から派遣された宣教師W・R・ランバス博士によつて関西学院は創立されました。新しくキリスト教主義に基づく青年の教育と世界宣教を目指した博士にとって、文明開化の花咲く港町神戸の地を選んだということにひとつねらいがあつたと思うんです。その創立時より視野を世界に広げようとしてきた志向性は一九二九年に移転した西宮・上ヶ原キャンパスに引き継がれると共に、来春開設の神戸・三田キャンパス「総合政策学部」にも脈々と受け継がれています。発展という美名のもとに地球規模で環境破壊、汚染が拡大し、飽食と飢餓が同時進行する現代世界、私たちはかつて人類が予想だにしなかったような深刻な危機に直面しているのではないでしょうか。また各地で社会体制の激変が起こり、経済がグローバル化する中で、新たな摩擦や軋轢が生じ、平和、人権が脅かされています。地球規模での「持続可能な発展」というグローバルな課題を追求しようとする「総合政策学部」の基本理念はヒューマン・エコロジー（人間生態学）を基盤にした「自然と人間の共生」「人間と人間の共生」です。専攻コースとしては、エコロジー政策、都市政策、国際発展政策の三つのコースがおかれます、私たちが直面していれる数々の課題に応えていくためには、人間社会の方というものをより総合的・包括的に理解する観点が必

要になります。ヒューマン・エコロジーを基本的視座に、既存の諸科学を総合的に組み合わせ、「Think globally, Act locally.」の発想のもと、理論と実践の統合を図ることが不可欠でしょう。そして、その根底には民族や言語、国境の壁を越えたグローバルな視野からの異文化理解と人を愛し慈しむ精神がなくてはなりません。その精神こそが他者や社会、ひいては世界に役立つ的確な視点をもつことにつながっていくはずです。「総合政策学部」としての開設は慶應、中央に続き三番目となりますが、関西学院としては、生活密着型、社会福祉追求を強調していくきます。世界に向けられたまなざしと奉仕の精神を創立以来の伝統とする関西学院が、全世界的な課題である環境問題や都市問題、国際問題などを教育・研究の主題として取り上げる「総合政策学部」の設置に踏み切ったのは必然的な流れと言えます。この新学部開設は関西学院の歴史上大きな節目となります、スクールモット「Mastery for Service」「私たちは努力して専門知識の習得と人間形成に努めなければならないが、それは単に自己の利益のためではなく、隣人への奉仕のためになければならない」との精神にかなうものでしょう。そうした精神なり、基本理念を反映させたカリキュラムを基に、小集団教育、外国語教育、コンピューター教育の徹底を図つてまいります。教員の半数近くは外国人及び海外での長い活動経験をもつ人々から構成される予定です。英語教育は、今改めて「英語の閑学」の復活を目指し、語学を中心でも英会話でもなく、言語文化、外国文化を理解した上で自分の意見、考えを表現することに重点を置いた発信型、英語で講義される専門科目と密接に連携を保ちながらの、総合的なコミュニケーション能力の養成を図るものです。設置科目の充実はもとより、コース間、科目間の連関性、全体の一体化を重視したカリキュラム構成のもと、追求していくべき多くの命題に対しいる総合的政策を立案できる人材づくりに、じっくりと取り組んでまいります。

世界の真珠業界のリーダーに

パールシティ神戸が世界に向けて
発信するパールモニュメントを

△座談会出席者▽（五十音順・敬称略）

木下 章夫

（株式会社木下真珠
代表取締役）

須藤 雄二

（伊豫真珠株式会社
代表取締役社長）

高橋 洋三

（タカハシパール株式会社
取締役副社長）

田崎 俊作

（田崎真珠株式会社
代表取締役社長）

近澤

真

（北村真珠株式会社
社長）

中村 友一

（有限会社御影貿易商事
代表取締役社長）

山本登里夫

（株式会社山勝真珠
専務取締役）



田崎 俊作さん



中村 友一さん

司会 本年9月、大阪に関西新空港が開港。関西が全国から熱い視線を集めています。この国際空港と神戸を結ぶ交通機関の整備も着々と進められ、国際都市神戸がますます世界との距離を縮めます。さて真珠業界では今秋、第1回の真珠国際会議が開催されるということですが、日本が誇る神秘の宝石が国際化の中でどのような位置づけをされていくのか、神戸をご活躍中の真珠業界の皆様にお話を伺いたいと思います。

中村 御木本幸吉が真珠の養殖に成功して100年が過ぎました。かつては日本唯一の特産品ということで、真珠に関して日本は世界中のフォーカスでありましたが、最近は生産の国際化、流通の国際化が話題にのぼるようになりました。ここでこの国際化という言葉について考



山本登里夫さん

近澤 真さん

高橋 洋三さん

須藤 雄二さん

木下 章夫さん

えたいのですが、イタリアの服を着てドイツの車に乗り、フランス料理を食べ、ハワイに行つた話を聞いていれば、それが国際人であると思ひ込んでいた人が本当にいるんです(笑)。私が思うに、眞の国際化とはまず自分の国を知ること。その上で相手の国についてよく勉強し、理解をすることであると考えます。例えば宝石の場合、ヨーロッパでは昔から伝統的に宝石に対する愛着がありました。日本におけるそれは、戦後、ゆとりが生まれてからのこと。つい最近のことですね。そしてアメリカにおいては伝統的な愛着というよりは実利的な意味をもつています。眞珠に関して日本は、長い間リーダーの立場をとつており、こちらの考えを一方的に押しつけることもできましたが、もうすでに日本の物差しで相手の国を測ることはできない時代に来ています。

山本 国際化という言葉には少々不満がありますね(笑)。眞珠にはこれまで国際商品として100%近く取り組んできた背景があるんですよ(笑)。中村さんがおっしゃったように、国にはそれぞれの文化があります。それに合った商品開発をしていければ、より売れるには違いないのです。そしてそれぞの国の取引慣習が異なっているのです。海外の文化には様々な個性がありますが、なにも千も一万もあるわけではありません。個性のグループ化を計った時、それはひとつの大ささをもつマーケットになります。そこへ私達のはつきりとした商品、考え方をもって行けば、理解を示してくれるグループも現れるでしょう。眞珠は国際商品である認識を持つていないといけませんね。

田崎 真珠は日本の特産品ではなくなりました。文化もスポーツもボーダレスの時代ですから、何も不思議なことはありません。眞珠は商う品でありながら文化的な値うちの高いものです。頭を切りかえ、商売をそれに合わ

せていかなければ取り残されています。貝がつくり出すという意味ではあこや真珠も淡水も南洋真珠にも境い目はないですよ。日本の真珠産業を守るということで、水産庁の指導のもと業界でもいろいろな方針を決め、取り組んでいます。しかし、日本の真珠業界は養殖や加工について一日の長があるのですから、それを活用して世界をリードする役割を果していかなくてはいけませんね。

高橋 真珠業界はこの15年間ほどで随分変わりました。真珠そのものに変化が起きた訳ではなく、真珠をとりまく環境が変わったのです。それに応じて我々の商売、立場もそれなりに動いてきました。我々の社会的認知度がそこそこ上がってくると、今まででは望んでも得られないものが望めるようになつたのです。例えば従業員の募集について。地域に認知されている、事業内容もある程度理解されているということで、かなりの反応がみられます。真珠産業そのものが貿易商社、メーカーといふだけでなく、宝飾業者のイメージが色濃くなつてきたために、一般消費者との距離が近づいたんですね。1981年、ポートピア博覧会の年に「バールシティ神戸」をうち出して14年、当時博覧会に出展されたのは非常に先駆的な企業ばかりでしたが、今やかなりの数の業者がそこまで来ている。裾野が広がつた嬉しさと同時に競争相手が増えたという困惑がありますね(笑)。

近澤 真珠は生まれた時からほぼ100%が輸出商品でした。輸出貢献企業として表彰を受けている会社ばかりの業界です。その業界に国際化という言葉が使われだしたのは、中国であこや真珠が生産されるようになつた頃から。南洋真珠の生産が始まつた時にはあまり問題にはなりませんでしたね。そしてみなさんがそれぞれ中国へ出向いて現地のあこや真珠を見、品質の点で、これなら

日本のあこや真珠はまだまだ大丈夫だろうと、一段落ついているのが今の現状ではないでしょうか。どこでつくられていようと、美しいものが売れる。危機感はあるけれども、良いものをつくっていれば大丈夫と、それほど逼迫はしていないんです。ただ流通面ではいいものを売る努力が、まだまだなさいませんね。1級、2級、3級、4級品と、生産者側からすると、つくるためのコスト、労力は同じなんです。よいものをつくるうという気は勿論ありますが、2級品ができるのも、そこそこ売れてしまいます。それがおかしな安心感を生んでいます。それと養殖の仕事は地方で行われていますのでとても閉鎖的です。情報もあまり訴求力をもたない。世界の真珠の品質が上がってきた時、日本の真珠がどうなつていくのか、それが不安ですね。

須藤 オーストラリアの南洋真珠も今まで日本の資本と、日本の技術でつくられてきましたが、徐々に現地の人々が自分達の手でやっていきたいと表明しています。インドネシアの真珠も日本人の手を離れていました。生産にそのような変化が起つてくると、次は流通面にも影響がでるだろうという話は目に見えてます。国際化という取り澄ました言葉の裏には、日本人が手を触ることのない真珠の出現に対する焦りが隠されているのではないか。

木下 國際化、と言いますが、過去の真珠の歴史をみると、日本はもとより太平洋、日本海、地中海等世界の国々で真珠は生まれ、命をかけて真珠貝を求めて海に潜つたと思われますね。その証しが北京、台湾での両博物院にある数々の真珠の宝物。北京の故宮博物院へは昨年13年ぶりに行きました。14年前に神戸博で真珠でできた宝物を借りに行つた時のことを思い出して懐しかったですね。ヨーロッパではクレオパトラの逸話にもでてくるよ

うに各地の博物館には真珠の装飾品が数多く陳列されています。

幸い我が国では100年前御木本幸吉をはじめとする先駆者のお陰で人為的に真珠をつくる事に成功したわけですね。まだ僅か100年、長い長い真珠の歴史の中のほんの一頁です。これからは日本だけでなく貝が生息する所、その種類を問わず各国がこの海の宝石を求めて挑戦してくると思います。その時に日本の我々業者が日本人特有の感性をもつて、真珠の価値観、神秘性、創造性のリーダーシップをしっかりとれる自負心が必要だと思います。胸をはって真珠の仕事ができるよう、こだわりをもつてやらなきやいかん。気を引き締めないとね。

司会 さてエリアを狭めて、神戸という街と真珠との関り方、真珠の街神戸のこれからについて伺います。

高橋 業界が、「パールシティ神戸」を打ち出して14年、まず知つてもらいましようというところから始めて、対外的にはまだまだ不充分だと思いますが、地元の人にはかなり認知してもらうことができました。行政、そして産業界の方々に知つていただけたのが大きいですね。神戸で商売をする以上、神戸と上手にかみ合っていくたいと思うんです。そのためには、我々真珠業者そのものの品質が問われるでしょう。真珠はイメージ商品です。横から横へ流して金を儲けたらしいという訳にはいきません。文化のレベルで真珠もつ価値観と商売をうまく絡めていきたいのです。商売とは真珠のように美しいものではありませんけれど(笑)、真珠を扱うのに相応しい我々の姿が、ファッショングループ都市神戸のイメージづくりにながつていけば、と考えています。

司会 神戸のファッショングループを取り材に来た東京のジャーナリストが、皆、口を揃えておっしゃるんです。

「会場に来ているお客さんの身につけている真珠が素晴らしい！」

中村 神戸の人がパールコンシャスになっているというのを認めてもらえるのは、業界の努力の結晶ですね。

須藤 北野あたりに、真珠のモニュメントが欲しいですね。現在の真珠会館はあまり存在を知られていませんから。真珠の歴史についてや、その他真珠についての全てがわかる、ホールつきの真珠会館なんてどうですか。観光向きのピアーレにもなります。真珠といえば三重のミキモト真珠島が浮かぶという人が多いですよ。それをこちらへ引っぱってこないと。一般の人の真珠への関心が高まるような楽しい会館が欲しいです。うちは売上げの7割が養殖なんですが、今でも海女さんを何人雇つてるですか、なんて尋ねられる(笑)。

木下 それはそれで夢を壊さないでおくのもいいですけどね(笑)。神戸には真珠が似合う雰囲気がある。金沢なら塗物、京都なら着物という具合に、それぞれのイメージがありますが、やはり真珠は神戸。芸術家やクリエイターが多く住み、早くから外国文化が入っていた土壤が関係していますかね。

中村 真珠業界には、つくれば売れるという時代がありました。伝統の上にあぐらをかいしていた時代があつたことを否定はできません。他国で真珠の生産が始まつたのを刺激に日本はバイオニアとして、このままで無秩序に無作為につくられてオーバープロダクトになりかねない世界の真珠の、交通整理を行なわなければならないと思います。創造のない伝統は形骸でしかありません。今秋に神戸で開催される第一回真珠国際会議では、真珠をつくる国、使う国が一堂に会して意見を交換しあいます。

田崎 日本の中のパールシティ神戸を、世界の中のパールシティ神戸にまでもつていくビジョンを創造していく

たい。今度の真珠国際会議はその第一歩です。そしてい

ずれは各国の真珠を集めた世界のパールフェアを神戸で行いたいという夢があります。世界中の真珠関係者が神戸に集まり、神戸から世界に発信できるような魅力的で話題性のあるフェアの開催を考えています。例えば御木本幸吉翁が言つた「世界中の女性の首を真珠でしめてごらんにいれます」の言葉をひき継ぐような夢について考えたのです。とはいえることを疎かにする訳にはいかない(笑)。実際経費も並大抵のことではないですかね。経営者としては夢は大きく現実的な実行にどうバランスをとるか、難しいところです(笑)。

山本 品質の良し悪しについていろいろ言われる真珠ですが、時代によつて好まれる色、形は変わつてきていました。エメラルドやサファイアも昔と今とでは色が違うんですね。これは蠟燭、タンクスティン、螢光灯と照明器具の変遷によるところが大きいんです。日本人女性の髪の色も昔はまさしく鳥の濡れ羽色の真黒でしたが、今は少しふろんズを帶びています。ですからそれに似合う真珠の色も変わつてくるのです。また、真珠は直接肌につけるものでしたから耐久性の面でも品質が問われたのですが、服の上に着けることが増えた昨今ではそれが少し緩まつたと思います。このように生活様式の移り変わりにより、品質の基準も変わつていくのですが、メーカー側の基準は固定されたままです。中国産の真珠は品質が劣る、と言いたいところなのでしょうが、それはそれでいいのではないかでしょうか。冷してそのまま食べて美味しいぶどうもあるんです。

高橋 白いのが好き、黄色いのが好き、涙型のが好き、とお客様のニーズが多様化しているのです。品質は価値づけではなく、それがどのような商品であるのかを示す

べきだと思います。

近澤 一般的エンドユーザーにわかりやすく丁寧な商品説明のできる小売店側の体制が必要ですね。真珠会館の中に教育機関を設け、例えばパールアドバイザーといった名称のライセンス制を敷くのはどうでしょう。

須藤 昨年、神戸にはマイスター制度ができましたね。行政の力を借りりたいです。我々が目立とうといふのではありません。神戸の魅力のひとつとして真珠をクローズアップしていただきたい。そのためにはやはり先程から話に上がつてある、発信力のあるモニュメントが欲しいです。

山本 山本通をパールストリートにという要望で、お金をかけてパールモニユメントをつくりました。パールストリート全体のシンボルにと思っていたのに、道路の規制があるからと設置の許可がおりなかつた。やむなく私有地の、でもできるだけ公道に近い所に設置しましたけど、その場所に不法駐車しています(笑)。

須藤 北野に觀光バス用の駐車場を是非つくつてもらいたいです。真珠会館もやはり北野に。船からも見えますし、また会館の方からも神戸が見渡せるでしよう。それからウールマークのよくな「パールマーク」をつくるうという話も以前ありましたね。

高橋 男性の襟章にも真珠をつけなくてはね。まず我々から始めましょうか(笑)。神戸に来られる行政、経済、文化関係のお客さんに、神戸のマークをあしらつた真珠をプレゼントするというはどうでしよう。それよりもまず、笹山市長の襟に、真珠をつけてもらいたいですね

田崎真珠株式会社

取締役社長 田 崎 俊 作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川 上 勉
神戸市中央区港島中町 6-5-1
TEL (078) 303-3311





「我々と一緒に会議を楽しんで下さい」と幹さん。

世界110カ国2万人のメンバーが神戸に集うこの世界会議に向けて、我々神戸JCのメンバー約400名が準備をしているのですが、会期中、様々な催しをしますので、どうしても人手が不足するんです。そこで、市民の皆さんご協力をお願いしたいと考えています。まず、会期中各国から来神するメンバーの案内役を務めて下さる語学の出来る方を求めています。特に資格とかは必要ありませんので、海外に興味を持ち、国際交流に取

11月10日から始まるJCI世界会議神戸大会。人の暖かさと地球に対する優しい気持ちをイメージし、様々なコミュニケーションをデザインしたポスターが完成、5月15日の神戸まつりでは、ベースを出してボランティアやホームホスピタリティについての説明をしたり、神戸で誕生した本格的ジャグバンド「春待ちファミリーBA

「Global Communication For the Future」With the spirit of 「MOTTAINAI」をテーマに、

NDと共にパレードに参加したりと、大会のPRにも力が入る。「JCI世界会議神戸大会を成功させよう」第4回目は、世界会議副実行委員長の幹潤さんに、ボランティア及びホームホスピタリティについてお話を頂きました。

思います。

ホームホスピタリティーは、国内外のメンバーが神戸近郊の家庭を訪問し、食事を共にしながら仕事を趣味、文化の話などで個人レベルでの国際交流をはかるうとするプログラムです。僕もヘルシング大会の時にこのプログラムに参加したんですが、とても印象に残っていますし、僕自身好きなプログラムなんですね。北欧のめったに見られない一般家庭を見ることができましたし、トナカイのシチューを食べながら、身ぶり手ぶりを入れての片言の会話でしたが、ほんとうに楽しかったですよ。難しく考えないで、友達としての交流を楽しんで頂けたらと思います。ボランティア・ホームホスピタリティに関するお問い合わせは

幹潤
（世界会議副実行委員長）



1994 JCI KOBE WORLD CONGRESS
THE GOLDEN ANNIVERSARY OF JCI
JCI世界会議神戸大会
1994年11月10日～20日

友達としての交流を 楽しんで下さい

● JCI世界会議神戸大会を成功させよう／4



雨の降る中、神戸まつりに参加。
世界会議のPRに力が入る。

1994年JCI世界会議神戸大会

神戸が沸き上がるイベントの数々

神戸ホリデー PART I

国際大茶会

11月13日(日)

茶道における「和敬清寂」をテーマに、茶道、華道、書道などの日本の伝統文化にふれていただきます。

神戸ホリデー PART II

オルケスター・デ・ラ・ルスコンサート

11月18日(金)

世界で活躍中の国連平和賞受賞のサルサバンドによる音楽で楽しむひととき。

神戸大会シンボルマーク



1994 JCI KOBE WORLD CONGRESS
THE GOLDEN ANNIVERSARY OF JCI

太陽は世界から集まる人々の熱い交流を、海と街は国際港湾都市神戸のイメージを、山は私たちが暮らす地球を表し、「地球市民の時代」の始まりを表現。



人の暖かさと地球に対する優しい気持ちをイメージしたJCI世界会議神戸大会のポスター

フォーラムイン神戸 PART I

環境フォーラム

11月13日(日)

地球が抱える大きな問題「環境」をテーマに意見を交わします。

フォーラムイン神戸 PART II

コミュニケーション フォーラム

11月17日(木)

ふれあいの基本となるコミュニケーションについて展開します。

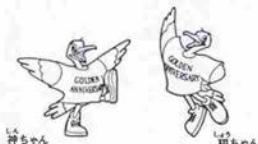
神戸大会テーマ

Global Communication for the Future
— With the Spirit of 「MOTTAINAI」 —



1994年、日本JCIが提唱した「もったいない運動」を「地球市民の時代」を具現化するひとつの手段と考え、世界に向けて「グローバルもったいない運動」として展開。

神戸大会キャラクター



港町、神戸から未来へ飛翔するカモメ。JCI創立50周年の思いを胸に、神戸大会で交わされた心、約束を、世界中に伝えるために翔いていくメッセージー。

藤本ハルミの K・F・Mヨーロッパファッショントリップ①

神戸ファッショントリップの留学生たち



パリエッフェル塔、西村建恵さん、妹尾光子さん、
藤本ハルミ。

の、グランプリ受賞者を一年間留学させ、パリオートクチュールの人材育成の中心になっている名門サンディイカで勉強をさせて丸二年になり、三人の優秀なデザイナーの卵をここに送りこんでいるが、その校長先生のマダムソーラー先生が最終審査に来神なさり、厳しくも熱心に生徒に質問され、他の審査員とともにグランプリを決められている。

グラン昭子さんはマダムソーラー先生のフランス語の通訳である。

私は、第一回グランプリの小華和耕太クンが始めて渡仏した時、彼の緊張したリボートと共に送られてくるグラン昭子さんの聰明で細やかな心使いと、始めてのパリでまだ充分に言葉も話せない耕太くんをまるでお姉さんのようにいたわり、めんどうを見、ご自分のお家へ招かれ優しくお世話ををする様子が手に取るよう感じられ、こんな良き人を得た事は、この留学を大成功にみちびくのに相違ないと思った。

私は小華和耕太クンの母になつたような気分になつて、グラン昭子さんに、ほんとにありがとうとお礼のFAXを送った。

この度の旅も、このサンディイカの学校を見学し、第二回の留学生の周耀鋒クンに会うのも大きな楽しみの一つであった。

昨年来神さなつたマダムソーラ先生は、小華和クンがどちらかというと日本人らしくシャイでひかえ目で二年目のメゾンでの実習になつてやつと実力が出せるようになつたと対象的に、香港から東京のファッショントリップを取り渡すとなつたが、やはり香港の中国人の国籍性というのか明らかに、ものおじせず、すぐに言葉も話せるようになり、とても素晴らしいと先生は青い目をクルクル廻しながら楽しそうに話された。

サンディイカの学校は、イブ・サンローランや三宅一生さんという錚錚たるデザイナーを世に送り出しているが

この度の、イスタンブル、プラハ、ミュンヘン、ベネチア、パリーという華麗な旅は、私達KFMのプランナーであり、兵庫県洋裁学校連盟の事務局長を長く続けてをられる妹尾光子先生のプランニングである。

来年卒業を迎えるというのに新車を購入し今でも運転するという妹尾先生がもう私の最後の旅行になるかもしれないからと、二十年前から度々行つたヨーロッパの国々の中から良かったところをよりすりプランをたてられた。

来年、結成以来十五年を迎えるKFMのデザイナー達は、三越の長井弘子さん、そしてプランナーの小泉さんをのぞき市野木悦子、丹野最世子さん、大西節子さん、前川富沙子さんに私とあと全員が参加した。

まだ見ぬイスタンブルのブルーモスクや、トプカプ宮殿の財宝、電通の新井満さんが絶賛したプラハの春を満喫しようとかわくする想いで伊丹をたつた。総勢十五名とそれに西鉄旅行の添乗員の笠原クンである。

それに出発前から何度も何度もパリのグラントラスさんとFAXで連絡をとつた。

神戸市のファッショントリップ協会は、毎年十一月に催される「ヨウベ・ファッショントリップ」の中で重要な事業として続けられているファッショントリップ



②元アバンにお務めでコンテスト第一回第二回に優秀な成績をおさめ自費留学した中尾真佐子さん。 ③マルコ先生(立体)もう1人、同君、私(中央上)

④マダムソーラ先生の秘書ルジューさんと(左)立体のデュパン先生(右)マダムソーラー先生はパキスタンへ出張中(中央下) ⑤テキスタイルの素適な先生(P. 57) ⑥右)

まるで個人教授のように小人数を丁寧に教育し、パリのオートクチュールのメゾンに送りこんでいるとのことで卒業のファッショニエリーに、カルダンやら、ラクロアやら有名デザイナー達やメゾンの人が金の卵を発見しにやってくるらしい。

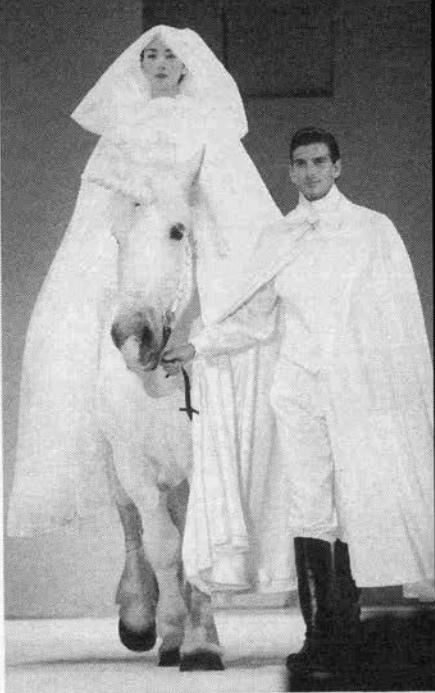
今の若い人って何て恵まれているんだろう、私は足ながおじさんのジュディアポットを夢見て果せなかつた留学の夢を彼等に重ね、神戸ファッショ協会から送られてくる彼等のリポートをむさぼるように読んだ。

グラント昭子さんはサンディカの学校見学のアポイントを取つて下さったほかに御主人のコネでイブ・サンローランとライロワのメゾンを見学し今年の春夏コレクションのビデオをそのメゾンでお客様のよう見るように見るという夢のような企画をたててくださつた。

それに昨年のコンテストでおしくも二位となつた久才春昭クンが自費でパリに来ていって、九月から特別科に四ヶ月ゆくことになつてるので、私達と一緒にライロワと、サンローランのメゾンに連れていってあげたいがいいでしようかとFAXが入つた。彼一人でメゾンに入ることなどとてもチャンスがないと考え、私達と一緒に彼にメゾンを見せたいと思つたグラント昭子さんの優しさ、私もこんなになりたいと思つた。

この旅行のフィニッシュのパリの期待も大きくふくらんで伊丹を飛立つたが、何しろ私自身、六月十一日に東京プリンスホテルでのファッショニエリーをひかえ、旅行ケーズに必要な品をボンボンほり込んでろくな用意も出来ず、くたびれはてての出発であったが、デザイナーは皆同じでフランクフルトに着く十五時間半の間、私も丹野さんもグログロ、市野木さんも気分悪いという雲ゆきあやしいプロローグとなつた。

(デザイナー・K・F・M会長)



世界遺産姫路城記念行事
キャスティバル'94

KENZOショー

酒井美恵子さん、兵庫県知事貝原俊民夫人も懇親会にかけつけた。



ショウの後、姫路キャッスルホテルで高田賢三さんを囲んでの懇親会が開かれ、戸谷姫路市長やマニア評論でおなじみの酒井美恵子さん、服飾評論家の大内順子さんらが歓談した。

5月14日、姫路城の世界文化遺産指定の記念行事キャスティバル'94のひとつとして、姫路市出身でパリ在住のデザイナー高田賢三さんが「KENZOショー」が、姫路市厚生会館で開催された。

カラフルなスーツに身を包んだモデルたちが、シャンパングラスを手に観客席からステージに次々と登場。'94-'95秋冬のケンゾーモデルショウが始まった。サーカスやブレイクダンスなど様々なパフォーマンスが組み込まれ、フィナーレには白馬も登場、会場の観客を魅了した。

5月14日、姫路城の世界文化遺産指定の記念行事キャスティバル'94のひとつとして、姫路市出身で

パリ在住のデザイナー高田賢三さ

んの「KENZOショー」が、姫

路市厚生会館で開催された。

カラフルなスーツに身を包んだ

モデルたちが、シャンパングラス

を手に観客席からステージに次々

と登場。

'94-'95秋冬のケンゾーモデル

ショウが始まった。サーカス

やブレイクダンスなど様々なパフ

オーマンスが組み込まれ、フィナ

ーレには白馬も登場、会場の観客

を魅了した。

ショウの後、姫路キャッスルホ

テルで高田賢三さんを囲んでの懇

親会が開かれ、戸谷姫路市長やマ

ニア評論でおなじみの酒井美恵子

さん、服飾評論家の大内順子さん

らが歓談した。

5月14日、姫路城の世界文化遺産指定の記念行事キャスティバル'94のひとつとして、姫路市出身で

パリ在住のデザイナー高田賢三さ

んの「KENZOショー」が、姫

路市厚生会館で開催された。

カラフルなスーツに身を包んだ

モデルたちが、シャンパングラス

を手に観客席からステージに次々

と登場。

'94-'95秋冬のケンゾーモデル

ショウが始まった。サーカス

やブレイクダンスなど様々なパフ

オーマンスが組み込まれ、フィナ

ーレには白馬も登場、会場の観客

を魅了した。

ショウの後、姫路キャッスルホ

テルで高田賢三さんを囲んでの懇

親会が開かれ、戸谷姫路市長やマ

ニア評論でおなじみの酒井美恵子

さん、服飾評論家の大内順子さん

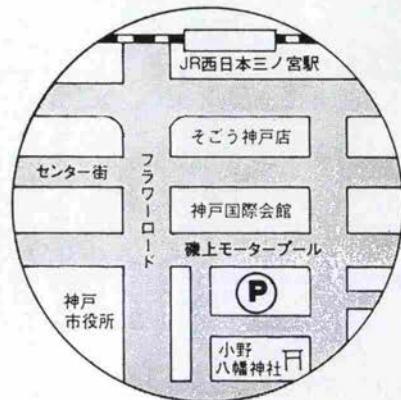
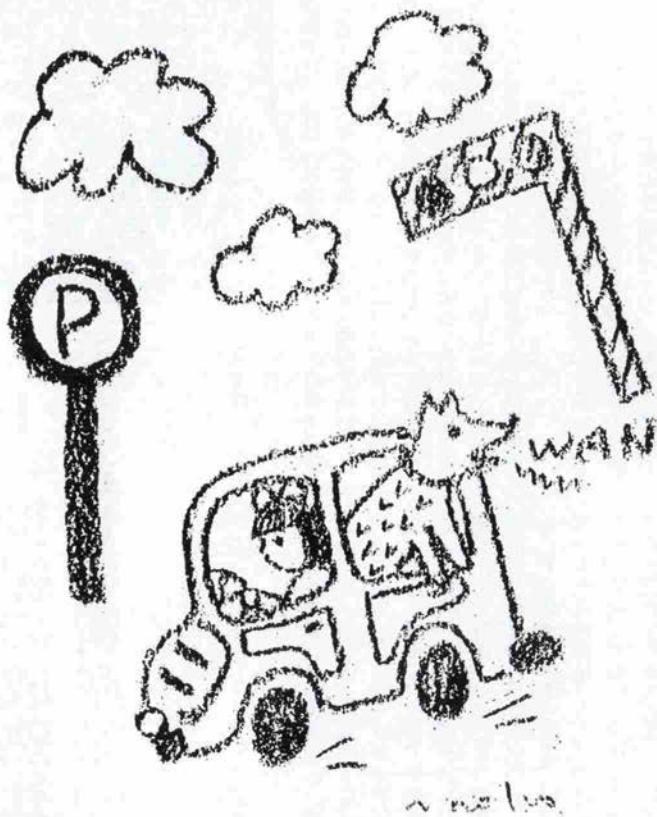
らが歓談した。

高田賢三さん(右)、大内順子さん(中)、

戸谷姫路市長(左)。



ビジネスに!
ショッピングに!
ご利用ください



磯上モータープール
(神戸国際会館前) TEL (078) 251-2662 (8:00A.M.~11:00P.M.)

- 収容台数 350台
- 月極駐車可
- 年中無休

■生活の質の向上と、新たなビジネスチャンスをめざして

二十一世紀の成熟社会に ふさわしい新産業の創出を

—新産業創造プログラム

お話を伺ったひと
神田 かんだ
栄治 えいじ さん（兵庫県商工部産業政策課長）

兵庫県では、経済・社会構造をこれまでの経済成長重視の大量生産・大量消費型から、適度な成長を保ちなが、一人ひとりのライフスタイルや環境に配慮した産業活動が行なわれ、生活の基盤となる社会資本などの「蓄積」の充実をめざす循環・蓄積型に転換するための取り組みを積極的に進めています。その一環として、真に豊かな生活を実現するために、平成六年度から「新産業創造プログラム」をスタートさせました。

このプログラムの仕組みは、①参加県内企業グループの募集、②開発チーフの選定、③同チーフによる調査や企画、そして事業化計画の作成、④事業化計画の認定、となっています。そして、認定された計画のうち一定の基準を満たすものについては、県が、補助金などの特別支援を行います。

企画立案に当たり、特に県が進めていきたい分野は、「身近な環境問題への対応」「豊かで安心して暮らせる住環境の創出」「高齢者のためのシルバー関連産業」「自由時間を豊かに演出する文化・レジャー活動の支援」など、新しいライフスタイルを支え、眞の生活の豊かさに

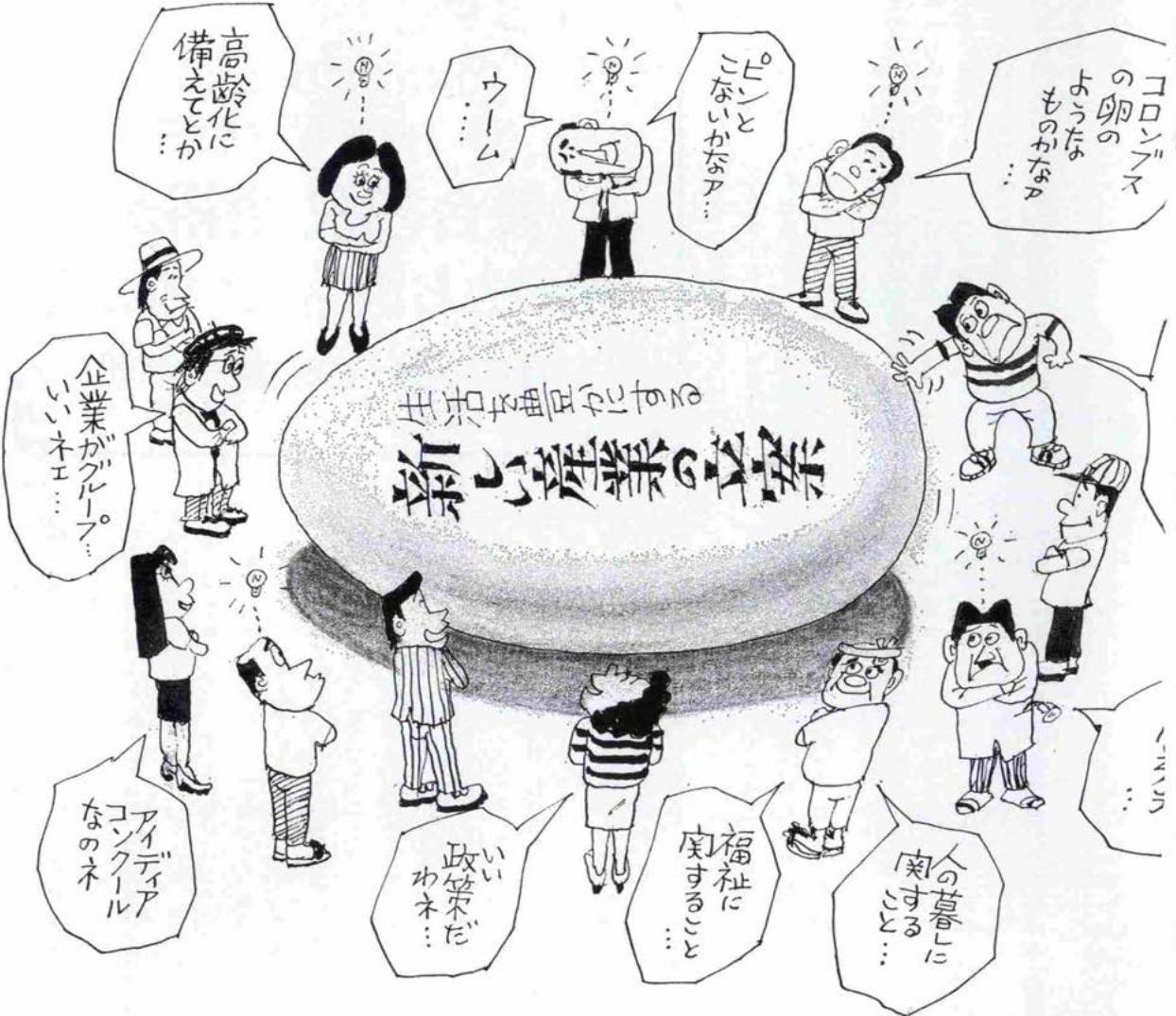
つながる成熟社会にふさわしい産業分野です。

「例えば、福祉のマンパワーなどの問題に対しても、今まで行政やボランティアの人たちが主に対処してきました。そこに企業のアイデアや製品などが加わることで新たな解決策が生まれてくる」とことで、企業間の異業種グループは県下に多くあります。どのように事業化に結びつけるかが分からぬところもあつたと思ひます。それを支援するのも今回のプログラムのねらいの一つです。新たな異業種グループの発足にもつながる刺激剤になればいいんですね」と産業政策課長の神田さん。

自分たちの生活をどのように豊かにしたいかと考えるとこころから新しい産業が生まれます。各消費者の意見が生かされた企画が今、求められています。このプログラムに参加する企業を動かすのは、県民一人ひとりの声なのがもしれません。

■ 同プログラム参加企業の応募締め切り 平成六年七月十五日(金)必着
お問い合わせは、
兵庫県商工部産業政策課
☎〇七八一三六二一三四四一





摩訶不思議

Takarazuka に迫る

対談 Vol.4 タカラヅカとコメディ

舞台を見る余裕が 笑いとお洒落につながる

日向 薫 VS 桂小米朝

〈女優〉

〈落語家〉

1914年の創立以来、斬新な試みを続け、オリジナルな芸術文化を築き上げてきた宝塚歌劇。その多彩な魅力に迫る対談シリーズの4回目は、歴代トップスターの中でも随一の長身で在団中はゴージャスなムードを漂わせ、退団後はコメディ作品で活躍中の日向薫さんと、古典落語に新しい息吹きを吹き込む上方落語の若手ホープ、桂小米朝さんの顔合せ。『間』が命の笑いの舞台経験豊かな二人の会話は、次から次へとテーマを広げながら休む暇もなく展開するハイテンションのかけ合いとなりました。

- 日向 薫 1914年の創立以来、斬新な試みを続け、オリジナルな芸術文化を築き上げてきた宝塚歌劇。その多彩な魅力に迫る対談シリーズの4回目は、歴代トップスターの中でも随一の長身で在団中はゴージャスなムードを漂わせ、退団後はコメディ作品で活躍中の日向薫さんと、古典落語に新しい息吹きを吹き込む上方落語の若手ホープ、桂小米朝さんの顔合せ。『間』が命の笑いの舞台経験豊かな二人の会話は、次から次へとテーマを広げながら休む暇もなく展開するハイテンションのかけ合いとなりました。
- 桂 僕、ネッシーさん（日向）の隠れファンだつたんですよ。
- 日向 いや、小米朝さんみたいな有名な方は隠れられないじゃないですか。
- 桂 何をおっしゃいますやら。
- 日向 その言葉大好き。紫苑ゆうが神戸出身だからよく言ってたんですよ。東京の方って“おっしゃいます”までしか言って下さらないから。
- 桂 そうですか。僕はネッシーさんの後に隠れて（笑）じゃなくて本当に星組はよく観ていたんですね。カッコ良かったじゃないですか。
- 日向 今日、会ったら幻滅されましたでしょ。在団中から全然変わらないこういう人間なんですねど、それは見えない良い役ばかり頂いていたもので…。
- 桂 舞台には楽屋は関係ないじゃないですか（笑）
- 日向 （笑）そういう方好きだわ。
- 桂 新しい劇場に立てなくて残念だったでしょ
- 日向 旧劇場で育ってきましたから、あの劇場のクローズと共に日向薫も終わつたというのは、自分としては嬉しかつたですね。自分が退めちゃつたというのは淋しいですけれど。新劇場には新しいものを見に行く感覺ですよ。
- 桂 サヨナラ公演の薄儀も豪華な衣装で良かつたんですけど、辻村ジェサブローさんの衣装で踊られたシヨーがありましたね。
- 日向 阿国のあたりの何でもやつていいような時代のものでした。



桂小路朝一 かつら こべいちょう '58年生まれ。関西学院在学中の'78年に父、米朝に入門する。オペラを取り入れた「おべらくご」など新スタイルを築く一方、TVや映画に司会者、役者としても出演。11月には大阪、近鉄劇場の「ザ・近松」で徳兵衛を演じる。

桂 外の舞台に立たれた感触はどうですか。
日向 大劇場育ちなので、三階席まである劇場がやっぱり嬉しいですね。ご挨拶の視線が習慣でそう

五人変われば客席は必ずWAVEする

桂 じゃあ、僕とも組めるんだ。
僕166センチしかないんですけど、ノミの夫婦ということで。
日向 お願いします。

男役だとベタ靴ですし、落ち着かせるために重心を下げる体勢で立っているから違うんでしょうね。外部に出て、この身長で支障があるかと思つていたんですが、案外ないものですね。洋画でも男女の身長が逆転しているものが多いし、そういう時代だからラッキーでしたね。

桂 ねっしさんは身長何センチですか。
日向 在団中は174センチだったのが、退めて伸びたんですよ。

桂 そんなことってあるんですね。
日向 知らず知らずのうちに無理をしていましたから、背骨の間が詰まっていたのが伸びて、いま175センチなんですよ。ドレスを着るようになると、背筋をカットアップしていかつたらヒールとかも履いていられないじゃないですか。

桂 ネッしさんは身長何センチですか。
日向 在団中は174センチだったのが、退めて伸びたんですよ。
桂 そんなことってあるんですね。
日向 知らず知らずのうちに無理をしていましたから、背骨の間が詰まっていたのが伸びて、いま175センチなんですよ。ドレスを着るようになると、背筋をカットアップしていかつたらヒールとかも履いていられないじゃないですか。



日向 薫=ひゅうが かおる 宝塚歌劇団出身。「76年初舞台。'88年星組トップスターに。'92年「紫禁城の落日」で退団。'93年舞台活動再開後は、ミュージカル・ショーTVに活動の場を広げている。次回作は9月東京、博品館劇場での「勝手な娘さんあとⅡ」。

TAKARAZUKA
& コメディ



いう動きになつてありますから。

桂 三階席があるというのは役者を育てますね。僕も若い頃に歌舞伎座の落語会で前座で出

桂 僕は大阪の出身ですが、大阪の方がおもしろいものに反応するお客さんが多くて、東京は芸術に反応する方が多いような気はするんです。それも舞台によつて、日によつても違います。

日向 パーンと反応する人が五人いると、もう客席の感じが変わりますからね。

桂 客席ってむつかしいですね。

日向 絶対笑いが起つる設定で書かれた場面は、笑いがこないと困りますけれど、それ以外の反応の所は毎日違うから惑わされないようにしようと思うんです。『きのう、こんなに湧いたから』ってそれを期待して出て行つたら大間違いを起こすので今日は一から、と思って舞台に立つようになります。

桂 舞台で嬉しくなつた感触は、その日で忘れて次に引きずらないでやらないといけませんね。

日向 笑い方にもムフッと思うだけで嬉しい人とワッハッハッとやらないと気がすまない人がいるじゃないですか。でも、どつちも楽しんで頂いてると思います。

桂 本当に五人笑えれば変わるんですよ。
日向 その人が笑うことによつて、連られて笑う方もいますし。演じている側はそこに頼っちゃいけないし、頼りたくなるし。コメディ、お笑いつてむつかしいですよね。

桂 東京と大阪の違いはないのかもしれないですね。関西のノリはワアワア言つことで、東京の笑いは乙に構えると世間で言われるからそうかなつて思うけれど、チャキチャキの江戸っ子とベタベタの関西人は同じような気がします。アクセントが違うだけで持つてゐるもののは同じ。

日向 ただ、ご夫婦でパーティやディナーショーに出かけるように装っている時は違うかもしれません。その格好に合わせたことをしたくなるというところが東京人ではないですか。今日はフォーマルな感じで出かけているからどんな笑いが来ても私たちもフォーマル。でも、関西の方は、フォーマルな格好で出かけていてもおもしろいものが来たらドッと湧く。

桂 逆に、どんな格好の時もおもしろいものがなかなかつたら満足しない。

日向 東京人はフォーマルな格好をして出かけたということだけで、もうマル。その辺の装いの違いはあるかなという感じはしますね。

桂 それだったら関西の方がいいじゃないです。フォーマルな格好をして出かけたか。フオーマルなドレスを着てもコメディを楽しめる余裕があるといいうのが。あるクラシックの会で、開演前に僕が入り口でフォーマルを着てエスコート役をしていると、日本人は“なに、この人”みたいな奇異な目で見ていく。外国人だけがスッとした目で会釈をかわしていくんです。そういう風なもの、これから舞台を見る余裕とか、

本当のおしゃれにつながっていくんでしょうね。日向 観客の方も変わってこれましたよね。外国のものがいい、というだけじゃなくてオープンになってきたこの感覚が好きです。

桂 そういう意味では宝塚のお客さんはもっと成りジャズのようなりズムに変わると、思わず指を鳴らしながら、足でカウントを取っちゃいますよ。日向 自然に身体が動いていますよね。宝塚はずっと見守る温かい応援の仕方のお客様に支えられている部分もありますけれど、それだけに惑わされてもいけないとも言えますね。私はミーハーなんでしょう。身内感覚ではなく、揃って階段を下りて来るのを見たら、やっぱり鳥肌が立ちますよ。“すごーいとかきれい”って連発しながら見てています。

桂 もっとみんながそうなつたらいいのに。

日向 舞台を見ることって、おとなしく与えられるもんだと思っていらっしゃる方が多いかもしれないけど、そういう意識ははずしてご自由に見ていただきたいですね。

桂 五人変われば客席はWAVEしますから、僕はムードメーカーになっていきたいです。見ている僕たちも参加していい舞台にしたいと思います。

日向 私もいろんなジャンルに挑戦していきたいと思っていますから、大きな女が必要なときは、私を思い出してください(笑)。

桂 気の弱い男が必要なときは、声をかけてください(笑)。

(取材協力 新神戸オリエンタルホテル企画・構成瀬川)





田崎真珠40周年 を祝つて

●話題のひろば

「夢を新たに40周年」をテーマに田崎真珠が、創立40周年謝恩セプションを、6月12日(木)ホテルオークラ神戸・平安の間に千人近いゲストを迎えて開催した。

貝原兵庫県知事は「田崎真珠さんは、世界の真珠や宝石の業界と手をたずさえ、世界の田崎に成長され、また、ロリンマゼールの音楽会を全日本で開かれる等、文化メセナにも力を入れられている」とメッセージ。 笹山幸俊市長は「ファッショントリニティ都市神戸の、コウベファッショントリニティエアのリーダーとしても多大の期待をよせていく。 今夜は、貝原俊民、田崎俊作、そして笹山幸俊と三人の俊が集まりました」と会場を笑わせた。

田崎俊作社長は「今夜は、世界中からゲストを迎えており、会場の趣好もインテラーショナルにつられましたので『ごゆつくり』と余裕のあいさつ。遊びのコーナーに宝石展示を、アメリカはカジノコーナー、ヨーロッパはカフェコーナー「ティアラ」をつける写真サービス、ブラジルはサンバ、中国は獅子舞。イスラエルは宝石占い、タヒチアンダンスコーナー等国際色ゆたかな催しだった。

写真 上左より/田崎社長と貝原兵庫県知事を囲んで/笹山市長メッセージ/あいさつする田崎社長/田崎夫人と永田夫人
下左より/イスラエルのダイヤモンドコーナー・
田崎真珠が、創立40周年謝恩セプションを、6月12日(木)ホテルオークラ神戸・平安の間に千人近いゲストを迎えて開催した。